8
4343
3

4343
3

雑唱長崎土産巻之三

造り物上げ方右の島井石ゞ紀の古く揚の馬場を清流堀
の神の社ゝ〜き神示ゝく幕内花乃よう舟たを
ゞ内伊紙いせう上下ゝく袖東つまと出ゝく
〜〜伊紙屋今日々伝授宗和飛揚の評流ゝゝく此流堀の社
ゝく御評流ゝくこの義日浪お揚ゝべ拙者ゝ一史人年玉〜ゝ揚り
せゝぐんの月ゝ住りゝゝふ有〜所る〜〜紙行お公せ紙御公所作る
当紙ゝゝ清流ゝも金行の事史紙迎りえよりつきそふ行迎ゝ
丸山寄合町〜入迎けいせん私ひゝ分ゞどゝイヤモウ一向ゝゝふぐく
今ゝて〜今日評流お揚ゝべ伝授生ゝの日浪もお迎ゝゝ人ゝゝ
大切ゝゝ山紙上のゝち浪失れ所ゝゝ西ゝ西ゝゝられべその

弱矣れふくおそろつをぢ出来る延引でゐるの　さやうでゐる弟
義も今日あすは行立合れ上いづれともおとうでゐる拙者も今日之大
通祠堂弁典義履之用之分名代ゆ為り就てゐる　それハ九若旁
ゆ為　手傳ゝ段揉ゝも来ぬより入とのせぶれたやうでゐるゆ
　ゆ為　なほどゆ為ゐるゝも来ぬより九就更へ元いそぶすゐゝとあいさう万物
神主方ゝ為上住り弗ゆ　これハ九若旁ゝ為ゐる　去ゝゝ御口九
住り中世ふト夫人を井れ間へゝのぐゝゝ実の井ゝ兵ゝ中ゝ
中ゝ　ゝ　ゝ　

宗十郎

梁の井

[illegible]

[illegible]

[illegible]

イヤサモ上手ヤ遠ヤ〜〜〜〜てや〜アモウよいこんの〜イヤヤご
ムること女がたつりひよヤホこそこらもれ結びこさにとかもこ〜イヤ
宗右門拍子去ると千濱屋よ孔ひつこ和ひもムをこで矢孔ごう
屋義へ来る〜ハテ扨りそろとお牛〜ヤこふ〜イヤモウゆるうと
ふつる色よムを〜コレサ俄紙屋コサく〇ハ〜こてころこさに
ムるこん〜こうエモウこんていぶん安ごやムう弗めそれそふこく宗右
来つ屋今日の浮義へいでムるかる〜今りの御浮義一件張
紙事紙破扶の義日限一変し〜来り十五日ふそ無義盗の作へ
出紙お極り別破紙それ近よ出来させよとの浮義承つけこが
此宗右来つ〜エそんなるこ〜ヲ十五日近よ来紙〇十五日といへ〜今
日とり二日の四数我よ形のうんぶも出ぶんたがこうらふ〜来

九宗七屋ばくのよ打今日ふ御ぶたるふも気ぶつ〜入ふ近ハ
こうまやこうるめおんぶんぶ〜とふもうこうも〜最屋の〜宗かし
ヤこんぶ安ふのこうこでこうるんぶ兵ぶうのもこ我ぶむひよそこら近ぶこうさんぶハ
ふうよく来けこ中こそ波ぶうこ〜そふてふうこう〜浮義の
拍子ふ波ぶうこふうこうる〜こうこ〜ぶ〜ぶ〜ぶ

四へだふつまるの○彼せん　ト　[illegible]

[illegible]

仲實若介弥義治さくこ[illegible]

仲實の若介シテ弥三郎の後ありし門の一番を　さればこん朝方を宗

[illegible]

[illegible]

[illegible]

造り物にて三尺の象牙上段中二階段〳〵紫檀に赤松の立木
枝下社の方に切戸にあり紫檀あり一面に五葉松あり
らひあり琴有るべく道具なる
トヽ実の井垂髪生えあるを入れ赤ろ物分
おしけさろさと持ち入れ出て関の井ぐまとあるを
らんやうくる持ち入れのさりを指図ものを
お義でるさてるぐもるれ物れど行るまのおるぐさきのふ
術神義の場面ようるんぐんと物ろ
立龍よりくるるまれうのお気だしそれ中のてあ
ぐらでるるのふ〳〵お面じかるも御ぐ行る最
もおるすぐおつれも出ようるてのおづひおを
よぐんぐ行るトりの内上段の宗内の関の井それおいるう〳〵宗方み

ちとをへどぐりくれうりさんもうるうるみ行ふ　吐日清姫の形獅
方まく神義れ上使紙が立をりく秋の羅影持ふ数も今ま
うぐ後れ形義いぐ〳〵ぐ〳〵ふ公といあるうん〳〵おるを
やるぐるあやうれ法力指ぐそくを御病気のえを家　井ふ公
つふい　公をおるるされ井ぐふ
も行をてるゆ〳〵ゆうふおひまを入るりぐ
いせあうぐふうふふ〳〵ふ安義ぐ
おくるを指別ふ形りを後達の
おりまるる〳〵を赤れ大ゆふふ
思ひ〳〵ゆんぐをふ四形りも御海宅指ぐ行ふ〳〵おあんぐ
ぐふふふ行ふトりふ内庭の松の鳥二ありてるくまを指をれ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

又ごろ〜は拙者が家へなげかうと仰せられ入来なされよう〳〵と神妙を
入れ申さるゝ〳〵ほどと仰せられまをさげ来ひそふまつさる
内後の義ある更シテ宗七郎〳〵いやぐ内儀仕り申ぬゆうよりの
仰る〳〵秀吉宗七郎のお仕りよおゆうう今やくこゝア出〳〵〳〵
だうり申りまうよりの仰る〳〵生涯の広芳さぞこゝとさつ
殺宗太郎つ半殺いよく伝付の家臣三日内内緩を慶させ
たるう〳〵宗評義のだーよこく出情やせーと大三日ようよりや付金
これば三日の内よ無能と存仰る〳〵きんちうきの武士こゝとく
ども仏ようの出くしの出ちよあのどんとおくいもむるのたア縁
正どとうでめ安逸さぐうの来三日の内出来させこゝ〳〵の上
きうよ仕せえぶ月きの評ざるコレろん新こさつてもあのの〳〵へ

出新延りのよしんしの出つるとゆきたらうこゝく評義の一件わかる氏
よりる宗七のつよあを出新ちまあのあ出つんがあさ義
千俵こゝ新内こゝく仕こゝく仕こゝ〳〵宗〳〵笑れ入るごうう
行仕やも先ぐ逃系〳〵モウおうこゝうぐいうそゆるのしゆアトむうこ
仕ぐ人ぐ〳〵出〳〵アうこうこれまお岩次の加こゆく宗七郎
こでのり仕る〳〵それ結うよこよく〳〵〳〵アトむうこ〳〵宗七
帰こくこゝのり仕ゆトいつあこゆ中る大せいエイかく〳〵こ〳〵か
コ布を付しゆうゆ仕ゆうゆ宗七郎
〳〵〳〵宗七郎南南〳〵めるこうて〳〵そゆうく〳〵〳〵アトおいけて人
下義仕宗そのまを内おーけちゆうん湯とこ我出る〳〵コリや先人仕へ
宗の年さゆさ宗七郎のまーしおりしおりこ
千俵こ仕るも御入来どわぐや〳〵宗七郎〳〵〳〵宗七郎
いける宗七郎対宗七郎〳〵〳〵〳〵

[illegible]

[illegible]

[illegible]

宗左衛門生れ　宗左　千　千千　千　八幡宮おわすれ
と遠系れ義家でうで素ぐ和泉を巡り　三郎屋敷
切腹ちさうる手ん　宗左　宗左　宗左　宗左
業人　ゆも清兵衛下さう　千　千　西天
州あんじつ　てさお良れ家れ　波陸伝出　近江　伝出
義ちよりしよ入め　喜みち小　宗左　切腹　行る
改易ちゃ　結める　伝遠　宗左　宗左　宗左　宗左
伝出　近江　伝出　宗左　宗左　宗左　宗左
ちあるおそうん　宗左　尾　紀伊　後も　二月の日ぐり　西天州
の冷義も　二月の内　宗左　宗左　宗左　宗左　宗左
一ぱつよ　ちさい　宗左　宗左　一生　厳命　宗左　宗左　宗左

既ちひ冷ちて　家の　ちけ　ちん　ぐん
ちれ　ト　宗左　宗左　宗左　千　千
四　契れ　ち　家　夏の良王　親　考れ　友　ちる　白　契れ　家　宗左
スリや　宗左　衛門　が　千　千　自殺　せ　ぬ　ち　玄　弟　腹の　腹中
の乃　宗左　そん　ち　ち　結の　おち　千　イヤ　千　ちら　腹中　ち　ち　ち
とりる　ト　宗左　宗左　宗左　宗左　宗左　宗左　宗左　宗左　宗左　宗左
ち　ち　が　お　ち　宗左　宗左　宗左　宗左　宗左　宗左　宗左　宗左
宗左　宗左　宗左　宗左　宗左　宗左　宗左　宗左　宗左　宗左　宗左　宗左
ち　ち　宗左　宗左　宗左　宗左　宗左　宗左　宗左　宗左　宗左　宗左
ト　寺　宗左　宗左　宗左　宗左　宗左　宗左　宗左　宗左　宗左　宗左
思ひ　迎　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち

ぶんしゅう
ぶんしゅう

保紀
冥の井

あくび○シレト宗七後切ことをとる宗七冥の弁ことわる
弁法切後をけるあ宗七なんとおつ
しゃると宗右ありく宗七れ宗右ふ宗七冥宗七これを宗右せう
大小をぬきとり
ぶく武士なる者のなをとりざ足弁者より金をあれ罷取よりあるれた
と後切ようとも弁ご罷足くるあどりふかるまんをとおようくえ者
宗七じゃをとやく宗右動者じゃをとくうせる冥エー宗七スリやうとくしを
冥
冥
冥

宗七 妙祐法義のある西天竺の世んぐさ 実 行徳をもつぬこの国の内 宗七 一関の
牛馬 実 ものもせと 千 あ人中て 実宗七 あのさハ千
傍し既 千 そち達を法義のなげつとめでの義り 実宗 うんとおし
しやまと 千 ちとんだ西をとりけ地をとぐる西天竺の盗賊をが
うあてもしまちゃ 実宗 平 千 西天竺紙うだひ へるうく
うつめ盗賊をひつとあてもふうみもひ 実 ミテ又を盗賊を
あるとふを 宗 ハそんだぐ みうるみ 千 名ふるつぬ盗賊のめで
いけぞや十孫もの殺をおあて お良孫正をあ七 宗七 ちゃ
四く毒紫を味させよ 宗七 ん命をもつく西天竺と石持せ
とあり ふをもげうれよたふく 法義せだよも志れぬとつるの
あるまんコリや 化 宗 あてもやぶれの基とるぞよ 実 スリや西天竺を

伯父孫正月が 宗 一盗賊とる 実 ムラ手せ 千 コリややて 実宗 御 刻ふ
千 孫西を泉しケが 宗 ぢしくもとるぞ 宗 命ともとの法
義 実 ぐまて 宗 まて行角で 宗 色 宗 今の盗名ともてぐふを 宗 外
千 志彼が殺西を十孫もの殺西実角 宗 公ひやふ 千 ちうべふく
宗 ハウトむうひ 宗 せ法をもふ人出とのう物を 宗 ハアおむうひトキ法をもふ
宗 ふるを出 宗 千法を宗法をつ宗 いの御形ひ 千 十二物ぐひふ
宗 せん程の四角ひうう 宗 宗宗法ふ次敷ふをもあるふ 千 ふを
分をもふ四角の矢 宗 四のよふ敷くふを 殺をふふ四
殺の文法 千 本のもよ底をもふ曲法のふ 宗 南小西氏への紙
宗 負の撰よんをもふ 千 法をふ法れ義交 千 土をふぐちふをもん 宗 交
宗七が義交せん法ふ 宗 ぐ摘縄と法 千 善の盗賊をふ

状てさぶや　宗　三日の内よつぎ疑敬おぼりやせし　寿ト　三百
の内　千　まろと丸答ろじややで　宗　此内とせめる　寿の紙宗麦
水麦搗しのよとろくろとろと白ぶいさせ　千　ハテ遣ト　宗
とろんてえと　結　おそ物トのろあろたせるイ　宗
ろくろ　千海ろ張ろ　宗　今月の御屋志
紙とろたやぶく元縄のさぶ方宗右衛　宗　今月の御屋志
ろろと丸ろと其上ぐ　千　五寸ろ　千　ハテ遣ト　宗
千　宗　おれト　宗　千海ろ張ろ　宗　ハテ遣ト　宗
宗　ほろ縄丸答ろトひく幕のよ結ひ　安　慶　慶

るんぬ彩色を義清と申す所に垂り大坂垂り紅れ問屋より出る出る七瀬
北浜で俳諧のさいこで庚人の義和とハイく実法まってござり
所る〳〵拙者モ方シテモ実法さ西進ものるゆどや白状せん〳〵イヤ
りゆそれを所申るされ申せ〳〵ぬうさぬうぬう〳〵ぬとう所剛
じゆぞ下女義カヌ〳〵アヤ申す〳〵金あるの妻実モ実兵衛さ
を荒北度又百敷北野の毛毬北敷大人参三百所陸奥十郎右の
系金ゆ武千兩ぐ実所さ系浪ぐよまれてもぞくゆの更あるさ
北おを名と書てと下所さのでムり所る〳〵ゆりや弱どりよ義度と
所さを戸田俳諧お良申義まんの主ぐさゆ〳〵ハイさゆうぐ
ムり所る〳〵出りさく主ぐ〳〵さ申べ〳〵さサ義うハ弥義浪さてゆの
ゆるをつぞるとゆ北出るく主ぐ〳〵ゆうゆ〳〵イヤ

モウ所本ゆみべ浪さムゆぐるれを白状を弱正どの
いひ付で本ムの敷上北西天竹ムを益ぐ浪しさ巻一ツ二ツみを
宗七度の平歩て逆系さ申千俵度へ毒薬と義上さ所ごれを
主くじり北ゆ三義そまぐ浪姫のゆ北扇りを弱てうちる所
ぐ千俵を張もさるりの義門うまちくと迷れを北上を首尾張
東ムく京入天下とのぞむお浪るれべて公えるを上所て公ゆ
物く義る朗弥のまを盗んぐゆれべ門どの金ゆ公更行状
しく義る所く数度ゆんうけられ行も南も主くじつを白状
北上を申ゆるムゆぬうぐうくべぐの状とサ、浪よるのされ申せ
宗〳〵迷を武士の俵ゆ如〳〵ゆを主くつまびうゆ白状ト浪ゆ
コリや友義を方を北出面を外宗七よ浪〳〵せよ

[illegible]

「西天竺」と宗七の親方、弱気させしを小間一歩れ落ち、ト[illegible]の[illegible]人

[illegible]ソレ寄出と言ひ大阪縁の中沢そこやト見[illegible]より出[illegible]

[illegible]出し出[illegible]と言ひ[illegible]の長く御[illegible]と言ふ[illegible]

[illegible]人どもの[illegible]ごとく此宗右つぐ一命[illegible]と[illegible]も出遅

[illegible]ト出亟[illegible]人のそびと出亟

[illegible]

「[illegible]」

[illegible]

「[illegible]」

[illegible]

「[illegible]」

浮世

光平

[illegible]の武威とまでさんみる
[illegible]拙者ふ[illegible]法よおめでた
[illegible]ばかりに[illegible]法よ[illegible]
小田宗左衛門血判
そりゃせき[illegible]
小田[illegible]家名お続[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]